

平成 27 年を締めくくるにあたって

校 長 大嶽 真康

平成 27 年最後の授業と防災訓練が終わり、年の区切りとなります。全校集会に臨み、私から一つの主題でお話しします。今日のテーマは、「小田高スィング＝バイ」です。

惑星探査機「はやぶさ」の話は聞いたことがありますか。今、地球軌道を走っているのは「はやぶさⅡ」ですが、「はやぶさ」に係るエピソードはいくつもの映画になって大変有名です。「はやぶさ」は、遠い小惑星に向かうために、自分のエンジンの力だけでなく地球の引力を使って大幅に加速します。すなわち、いったん地球の軌道に入り、地球を回ってそこから抜けるときに引力エネルギーを利用して最大限に加速し、軌道から飛び出していくのです。このことを「スィング＝バイ」と呼んでいます。

今日私が話したいのは、「小田高スィング＝バイ」です。さまざまな場でお話ししていることですが、今般神奈川県教育委員会は戦後 3 回目となる県立高校の大改革を行います。今月 14 日には、三期 12 年にわたる県立高校改革の 1 期目（当初 4 ヶ年）の実施計画案が発表されました。研究指定校の指定、インクルーシブ教育実践推進校、新規クリエイティブスクールなどの公表、さらには学科改編が大規模に行われます。関係する県立高校数は延べ 100 校に及びます。戦後三回目の大改革が今行われようとしているのです。

この改革の中で、小田原高校全日制が関係する内容は次のとおりです。まず、学力向上進学重点校のエントリー校（予定）になりました。この位置づけにより、本校は生徒の学力向上のためにさらなる努力が求められます。今後は学校全体で生徒の進路実現のための教育施策を実施し、一層の努力を重ねるつもりです。次に単位制普通科高校が改革されます。この中で本校は、進学を目的とした年次進行型の単位制高校として新しいミッションを与えられました。平成 29 年度からは半期の単位認定を基本とした「セメスター制」高校としてさらなる飛躍に向けて邁進することになります。最後になりますが、時代の要請を受けたグローバル教育研究推進校の指定も受けています。

「スィング＝バイ」と言ったのは、このことです。現在の小田原高校は平成 16 年の単位制移行から 12 年経過し、新たな課題がいくつも生じています。これを小田高単独で解決するのは困難なところですが、そこへ今般、県立高校改革の波がやってきました。この力を地球の引力にたとえましょう。全人教育・進路実現「探査機・小田高」が単独の力でできることには限界があります。そこで県立高校改革という巨大なエネルギーをフルに活用して、きみたち生徒一人ひとりの進路実現のために全力で取り組む、それが「小田高スィング＝バイ」です。

高校改革と平行して、平成 28 年度から県教委は授業時間確保のため長期休業日の上限日数を引き下げ、開校記念日の授業を解禁します。これにより本校は長期休業日を 55 日と定め、4 月 28 日には開校の歴史を偲びつつ授業を行うこととなります。土曜授業も各校で始まります。本校では 27 年度に着手した「土曜学習」の土壌があるので、その延長線上でスタートさせることができます。

これらは端緒にすぎません。伝統ある小田原高校は、新しい時代の求めに応える人材を輩出するために、高校改革のパワーを活用して自己変革していきます。

「小田高スィング＝バイ」のかなたにあるもの、それは君たち一人ひとりの輝かしい未来です。

さあ、冬休み。将来の飛躍のために、大切な休みを有効に使いましょう。人生観を拓き、視野を広め、知識を深める日々であり、また体を鍛える日々であることを期待しています。